

地域医療支援病院業務報告書

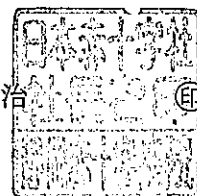
令和元年9月30日

静岡市保健所長 加治 正行 様

所在地 東京都港区芝大門1-1-3

開設者 名称 日本赤十字社

代表者の氏名 社長 大塚 義治



平成30年度の業務について、次のとおり医療法第12条の2第1項の規定により報告します。

- 1 地域医療支援病院の名称
- 2 開設の場所
- 3 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績
- 4 共同利用の実績
- 5 救急医療の提供の実績
- 6 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績
- 7 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
- 8 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 9 医療法施行規則第9条の19第1項の委員会の開催の実績
- 10 患者相談の実績

別紙1 地域医療支援病院の名称及び開設の場所

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
氏名	日本赤十字社 社長 近衛 忠輝

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 地域医療支援病院の名称

静岡赤十字病院

3 所在の場所

〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町8番2号 電話 (054) 254-4311

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	床	床	床	465床	465床

5 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) 除細動器、心電計、人工呼吸器、呼吸循環監視装置、ベッドサイドモニター、超音波診断装置、個人用透析装置、補助循環装置 (IABP・PCPS) 病床数 6床
化学検査室	(主な設備) 生化学自動分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、全自動免疫化学発光測定装置、全自動血液ガス分析装置、自動血球分類装置
細菌検査室	(主な設備) MIC培養判定機器、MIC菌液分注装置、全自動血液培養装置、細菌同定感受性検査機器、安全キャビネット、質量分析装置
病理検査室	(主な設備) 病理診断支援システム、自動染色装置、自動封入装置、自動免疫染色装置、臓器標本撮影装置、凍結切片作成装置
病理解剖室	(主な設備) 解剖台、遺体保存用冷蔵庫、臓器標本撮影装置、臓器保管室
研究室	(主な設備) プロジェクター (移動式)、スクリーン、ノートPC2台 (備付)
講義室	室数 2 室 収容定員 130 人
図書室	室数 1 室 蔵所数 4906 冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 酸素ポンプ、吸引器、折りたたみ式担架、無線機、人工呼吸器、ハートモニター、AED、シンリンジポンプ、SPO2モニター、輸液ポンプ 保有台数 2台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 10.28 m ² [共用室の場合]

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

別紙2 紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績

(他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績)

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院 紹介率	71.8%	算定 期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
地域医療支援病院 逆紹介率	105.6%		
算出 根拠	A：紹介患者の数		8,432人
	B：初診患者の数		11,744人
	C：逆紹介患者の数		12,396人

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

平成30年度 地域医療支援病院 紹介率・逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
地域医療支援病院紹介率	74.4	70.5	72.7	72.1	67.8	70.0	72.6	73.4	71.3	73.9	71.4	71.8	71.8
① 初診紹介患者数	727	769	809	795	764	624	807	760	712	681	708	751	8,907
② 休日夜間初診救急紹介患者数	29	48	37	41	36	35	40	32	35	40	49	53	475
③ 休日夜間初診救急患者数	350	413	339	521	447	467	408	369	555	694	424	388	5,375
④ 平日初診の救急患者数	91	90	94	121	102	87	105	115	100	99	86	102	1,192
紹介率計算式初診患者(分母)	938	1,022	1,062	1,046	1,074	842	1,056	992	950	867	923	972	11,744
⑤ 初診料算定数	1,408	1,573	1,532	1,729	1,659	1,431	1,609	1,508	1,640	1,700	1,482	1,515	18,786
地域医療支援病院逆紹介率	96.4	91.1	91.8	99.1	93.0	106.3	101.2	118.0	113.8	120.2	125.6	116.6	105.6
⑥ 逆紹介患者数	904	931	975	1,037	999	895	1,069	1,171	1,081	1,042	1,159	1,133	12,396

上記①～⑥の定義

- ① 開設者と直接関係のない他の病院又は診療所から紹介状により紹介された初診の患者。(時間外を含む)
但し、自覚的症状がなく健康診断を目的とする当院の受診により疾患が発見された患者で治療の必要性を認めて治療を開始した患者は除く。
- ② 休日又は夜間に他の医療機関(1次救急医療機関等)の紹介状により診療を行った患者数
- ③ 休日夜間に治療を必要とした初診の救急患者。(救急外来での受診による)
①との重複を除く。
- ④ 平日に救急車で来院し治療を必要とした初診の救急患者。(救急外来での受診による)
①との重複を除く。
- ⑤ 診療報酬上の初診料(270点)を算定した患者。
- ⑥ 診療報酬上の診療情報提供料I(250点)及び診療情報提供料II(500点)を算定した患者。
診療報酬上の地域連携診療計画管理料(900点)を算定した患者を含む。
重複患者を除く。

別紙 3 共同利用の実績

(地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制が整備されていることを証する書類)

1 共同利用の実績

1) 病床の共同利用	
・ 医療機関の延べ数	112医療機関
・ うち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数	94医療機関
2) 医療機器の共同利用	
MRIの共同利用	
・ 医療機関の延べ数	187医療機関
・ うち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数	153医療機関
CTの共同利用	
・ 医療機関の延べ数	157医療機関
・ うち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数	108医療機関
RIの共同利用	
・ 医療機関の延べ数	44医療機関
・ うち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数	31医療機関
3) 研修施設の共同利用	
・ 医療機関の延べ数	35医療機関
・ うち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数	35医療機関
4) 合計	
・ 医療機関の延べ数	535医療機関
・ うち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数	421医療機関
5) 共同利用に係る病床の利用率	25.5%

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

共同利用病床 6床
手術室
放射線機器 (CT・MRI・RI)
内視鏡
図書室

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

ア 共同利用に関する規定の有無 有 無

イ 利用医師等登録制度の担当者 氏名: [REDACTED]

職 種: 地域医療連携課予約係長

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住 所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
共同利用の登録医療機関名簿に記載された医療機関数 医科 84施設 (うち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数…84施設) 登録医療機関名簿は、別添 3のとおり				

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	6 床
--------------	-----

静岡赤十字病院

開放型病床(オープンシステム)

利用の手引

平成21年6月 作成

平成22年7月 一部改正

平成24年4月 一部改正

平成28年6月 一部改正

平成29年7月 一部改正

静岡赤十字病院

目 次

1	病院案内	3
2	登録医	6
3	共同主治医制	6
4	共同診療	6
5	入退院	7
6	連絡方法	8
7	登院について	9
8	登録医の診療報酬	9
9	医事紛争、業務災害	10
10	運営協議会	10
11	その他	10
	様式 1 オープンシステム登録申請書	11
	様式 2 オープンシステム登院簿	12
	様式 3 オープンシステム共同指導診療録	13
	様式 4 オープンシステム入院依頼票	14
	様式 5 オープンシステム入院予約通知票	15
	様式 6 オープンシステム入院通知票	16
	様式 7 オープンシステム共同指導料会計箋	17
	様式 8 登録医診療報酬計算書	18
	様式 9 主治医制の変更届出書	19
	付表 1 覚 書	20
	付表 2 実施要綱	21
	付表 3 協議書	23
	付表 4 オープンシステム運営協議会要綱	24

1 病院案内

開設者 日本赤十字社長
病院名 静岡赤十字病院
所在地 〒420-0853 静岡市葵区追手町8番2号
社長 近衛 忠輝
病院長 磯部 潔
病床数 465床

診療指定 救急告示病院
災害拠点病院
地域医療支援病院
エイズ拠点病院
DPC 対象病院
地域肝疾患診療連携拠点病院
第三次救命救急センター
地域災害医療センター
臨床研修指定病院
外国人医師臨床修練指定病院
地域がん診療連携推進病院
財団法人骨髄移植推進財団認定非血縁者間骨髄採取認定施設
財団法人骨髄移植推進財団認定非血縁者間骨髄移植認定施設
日本さい帯血バンクネットワーク登録移植医療機関

学会認定 日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本内科学会認定内科専門医教育病院
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本病理学会研修認定施設
日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔学会認定病院
日本泌尿器科学会専門医基幹教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本胸部外科学会認定医制度指定施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設
 日本気管支学会認定医制度認定施設
 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設
 日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関
 日本静脈経腸栄養施設認定 NST 稼働施設
 日本形成外科学会認定教育関連施設
 日本神経学会専門医制度教育施設
 日本脳卒中学会認定研修教育病院
 日本糖尿病学会認定教育施設
 日本小児科学会専門医研修施設
 日本消化器病学会関連施設
 日本消化器内視鏡学会指導施設
 日本気管食道科学会認定専門医研修施設
 日本静脈経腸栄養学会サポートチーム専門療法士認定規則実施修練認定教育施設
 日本腎臓学会研修施設
 婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構登録参加認定施設
 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
 日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医研修施設
 日本高血圧学会専門医認定施設
 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
 日本呼吸器学会認定施設
 日本リウマチ学会教育施設
 静岡県医師会母体保護法指定医師研修機関
 日本検査血液学会骨髓検査技師研修施設

標榜科目 総合内科 糖尿病・内分泌代謝内科 血液内科 リウマチ内科 神経内科
 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科・消化器外科 整形外科
 形成外科 脳神経外科 呼吸器外科 心臓外科 血管外科 皮膚科
 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科・気管食道科 放射線科 麻酔科
 救急科 精神神経科 リハビリテーション科

特殊外来	血液内科	血液内科セカンドオピニオン外来
	神経内科	群発頭痛外来
		「薬剤の使用過多による頭痛」外来
	小児科	小児内分泌外来
		小児循環器外来
		小児神経外来
		子どもの心の外来
	外科・消化器外科	肝・胆・膵外来

産婦人科

耳鼻咽喉科・気管食道科

乳腺外来

食道・胃外来

ニコチン依存症外来

中高年外来

婦人科腫瘍外来

補聴器外来

鼻アレルギー外来

2 登録医

登録医とは、静岡赤十字病院長がオープンシステムに関わる診療業務を委嘱した、診療所医師を指します。

【登録医となるための手続き】

1. 登録申請書（様式1）を静岡赤十字病院へ提出。
2. 静岡赤十字病院より医師会へ静岡市静岡医師会長の推薦サインを依頼。
3. 静岡赤十字病院より登録医証を発行いたします。

委嘱期間は1年（4月1日から3月31日まで）で、年度の途中でも登録医となることができます。

なお、各登録医に静岡赤十字病院固有の登録番号が付与されます。

3 共同主治医制

オープンシステムに基づき入院した患者の診療にあたっては、2人主治医制（主治医と副主治医）がとられ両者互いに共同して診療にあたることとなります。

個々の患者ごとに以下の2つの型のいずれかが選択できます。

I型：登院が可能な場合。（登院は日程の都合がつく限りで結構です）

II型：登院が不可能な場合。（電話・FAX・メール等による情報交換を主とします）

I型 原則として、登録医が登院し、当院主治医と共同で入院患者の診療に当たるよう努めていただく形態です。

登録医に登院していただく為、時間的・距離的制約がありますが、日程が折り合えば当院の医師と直接会って意見交換していただき、お互いのコミュニケーションが取りやすくなるメリットがあります。

II型 当院主治医と登録医が、電話・FAX・メール等により、入院患者の診断・経過・治療計画・退院後の治療方針などについて情報や意見交換を行う形態です。

時間的・距離的制約などから、なかなか登院できない場合に適しています。

4 共同診療

入院期間中、両主治医は互いに連絡を密にして意思の疎通を図り、共同診療の実をあげるよう努めましょう。特に入院当初や退院時など必要に応じて診療科部長を含めて直接協議する場をつくるのが大切です。

1. 登院時の手順

（駐車場）→登院簿（様式2）に記名→名札をつけた白衣着用→病棟ナースステーション→

回診→共同指導診療録（様式 3）に記載→帰宅後カルテに共同指導を記載

2. 共同指導診療録（様式 3）

登録医は共同指導を行うごとに必ず所定欄にサインをし、また、必要に応じて投薬・検査・処置などに関する意見や連絡事項を記載してください。

3. 診察時間

8 時 30 分から 17 時までのいわゆる日勤時間帯と定められています。やむを得ない事情がある場合 19 時 30 分まで延長されますが、看護職員など著しく手薄となることをご理解ください。

4. 診療科行事への参加

診療科別に行われる症例検討会、抄読会、総回診、手術、検査などに参加・見学されるようお勧めいたします。詳細は各診療科にお尋ねください。

5. 他診療科の入院患者の副主治医

登録医のもとで診療中の患者が、他領域の疾病で入院した場合にも副主治医となることができます。（例えば、内科の登録医が泌尿器科の副主治医となるなど）。また入院中転科した場合も同様になります。（総合内科→外科など）

6. 診療記録の取り扱い

① 表紙の区別

オープンシステムで入院した患者診療録のホルダーは「黄色」です。

② 紙媒体記録の電子化

当院では電子カルテシステムを採用していますが、原則として開放型病床（オープンシステム）の記録は紙に記載後にスキャナ取込にて電子化されます。

【対象】

ア. 登録医が術者として行う手術、検査の説明書・同意書（登録医の自施設の用紙を用いて行ったものを含む）

イ. 登録医が術者として行った手術記録、検査の記録

ウ. 共同指導診療録（様式 3）

エ. その他

5 入退院

登録医が患者を入院させようとする時には、次の手順でお願いいたします。

1. 外来診察（予約）の申し込み

診療情報提供書を静岡赤十字病院地域医療連携課へ F A X 送信してください。折り返し、外来診察予約通知票を返信いたします。

2. 外来診察

患者に受診していただき、入院日、手術日を決定します。

この時に、患者には、入院について説明させていただきます。

診察時に病院が入院依頼票（様式 4）を作成（代行）し、それを基に入院予約通知票（様式 5）を作成し、登録医へ F A X 送信します。

3. 入院

- 1) 患者は入院予約通知票（様式5）、保険証を持ち、入院の支度をして、1号館1階6番「入退院センター」へいらしてください。
- 2) 患者が入院した後、病院から登録医へ入院通知票（様式6）をFAX送信します。
（入院中に登録医が登院され診療等を行う場合は、「7」 登院について」をご覧ください。）

<留意事項>

- (1) 登録医は患者にこのシステムの趣旨と開放型病院共同指導料加算についてあらかじめ十分な説明をしておくことが必要となります。病院側も入院時に同様の説明をします。
- (2) 当院入院のための関係書類（入院申込書、入院案内）は登録医のもとに常備しておきます。
- (3) 入院待ち日数は病状の緊急度と占床状態によって決まります。
- (4) 緊急の場合には、日中・時間外を問わず救急外来を經由して取り扱います。
- (5) 登録医のもとで診療中の患者が直接緊急入院したような場合には病院側主治医は、患者の意思を確認した上で登録医へ連絡するよう留意します。
- (6) 患者の病状などにより、入院する診療科が変更になる場合もあります。
- (7) 事前の外来診察を経ないで、初診日に入院となるケースもあります。

4. 退院後

退院後の診療は登録医のもとで継続することが原則になります。

退院前には退院後の治療方針などについて診療科部長を含めて両主治医の十分な協議が必要になります。

退院後しばらくして、患者の退院時の入院要約が登録医のもとにFAXで送られます。

退院後の経過中に大きな病状の変化が発生した場合には、随時病院側診療科部長と連絡をとってください。

6 連絡方法

登録医の先生方と病院との連絡窓口は地域医療連携課(1号館1階)の職員がその任にあたります。

<連絡窓口>

(平日)	電話・FAX 受付時間	月曜日～金曜日	8:30～17:00
	地域医療連携課	直通電話	054-260-7634
		FAX	054-253-8393

(休診日・時間外) 時間外・土曜日・日曜日・祝日・創立記念日(5月1日)で緊急を要する場合は、下記にご連絡ください。

病院代表電話	電話	054-254-4311
(救命救急センター)	FAX	054-272-7684

7 登院について

1. ご利用駐車場

登録医の登院時には契約駐車場（静岡呉服町スクエア駐車場）を無料で利用できます。

2. 受付

登院されましたら、登院簿に登院時間、氏名等をご記入ください。

平日 8:30～17:00 : 地域医療連携課又は1号館1階オープンベッド医局

上記以外 : 1号館1階オープンベッド医局

記入後、専用白衣・登録医用手札をお渡しいたしますので、必ずご着用ください。

1号館1階にオープンベッド医局がありますので更衣、休息、意見交換等にご利用下さい。

8 登録医の診療報酬

1. 保険請求による報酬

ア. 開放型病院共同指導料 : 1日につき 350点

イ. 診療情報提供料 : 1件につき 220点

2. 保険請求以外の報酬

以下の診療行為を行った場合は、共同指導料のほかに一定の報酬が支払われます。

① 執刀医となって手術を行った時。健康保険法による保険点数(手技料)の30%に相当する額。

② 心臓カテーテル法、アンギオ、内視鏡及び膀胱鏡並びに生検法の検査を行った時。健康保険法による保険点数(手技料)の30%に相当する額。

③ 手術に際し、手洗い参加した時。健康保険法による保険点数(手技料)の10%に相当する額。

3. 報酬の支払方法等

ア. 保険請求分は、診療報酬請求明細書を使い、患者負担分を患者に直接請求することになります。労災保険、自賠責保険の取り扱いも共同指導料は算定できます。

注1) 登録医は、入院前に開放型病院共同指導料の負担金について十分患者の理解を得てください。

注2) 病院は、入院時に開放型病院共同指導料についての説明を行い、さらに理解を得るよう努めます。

イ. 登院し、診療業務に従事した際には、患者1人1枚使用で病棟にある「オープンシステム共同指導料会計箋」(様式7 黄色複写伝票)に患者氏名、実施日、自分の氏名を明記し、1枚を持ち帰り、他の1枚は、病院(医事課)での計算基礎とします。

この際、カルテの共同指導診療録(様式3 黄色)に診療月日等を記載し署名することを忘れないようにしてください。

ウ. 登録医の方が手術(手術に際し手洗い参加を含む。)、検査を行った時は、病院が「登録医診療報酬計算書」(様式8)を作成します。

支払は、月単位で指定口座へ振込送金されます。

(参考)

1. 診療報酬請求明細書の書き方
 - ① 外来分の診療実日数には開放型病院共同指導を行った日数を含めて記載。
 - ② 開放型病院共同指導料（I）を算定した場合は、「開I」と表示して、該当項目、回数及び合計点数を明細書の80「その他」欄に記載します。なお、適用欄に入院日を記載します。
2. 入院の日及び入院期間の取扱について
 - ① 入院日は、病院に入院した日となります。
3. 登院時に記載すべき書類
 - ① 共同指導診療録(様式3)に記入、署名をしてください。
 - ② 共同指導料会計箋(様式7)に記入、署名をしてください。
 - ③ 様式7の(院外主治医用)を持ち帰り、自院カルテに記入してください。

9 医事紛争、業務災害

医事紛争が発生した場合には、診療科部長を含め両主治医が共同して対処することになります。損害補償や医療裁判に進展した場合には応分の責任が生ずることは当然ですが、それぞれが加入している損害賠償保険によって処理されることとなります。

10 運営協議会

オープンシステムを円滑に運営していくためには、静岡赤十字病院オープンシステム運営協議会が設けられています。

協議会は、病院側から診療科部長、看護部所属職員、地域医療連携担当職員、並びに医師会側から代表委員により構成されます。

年1回の定例会のほか、必要の都度臨時会を開催して運営上の重要事項を審議し、また必要に応じて実務的な課題を処理するため部会を置くことが定められています。

11 その他

1. 原則として、登録医は院内の学習的諸活動への参加が自由となります。
 - ア. 登録医の先生は、院内では名札をつけた白衣（病院で用意した物又は各自ご持参の物）の着用をお願いします。
 - イ. 健康講座：院内・院外で開催される並びに院内研究会、研修会にも随時ご参加ください。
 - ウ. 病院図書室：時間内のみ司書が常駐し、閲覧室には複写機も置かれています。
文献の検索については、司書にお申し付けください。

オープンシステム

登録申請書

平成 年 月 日

静岡赤十字病院院長
磯部 潔 様

氏 名 _____ 印

医療機関
名称 _____

所在地 _____

TEL _____

FAX _____

静岡赤十字病院オープンシステム登録医の登録をお願いします。

静岡市静岡医師会 会長推薦

静岡赤十字病院オープンシステム登録医として適任と認め推薦します。

平成 年 月 日

社団法人 静岡市静岡医師会

会 長 _____ 印

オープンシステム

登院簿

平成 年分

登院月日時分	氏名	登録番号	診療	その他
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				
月 日 時 分				

オープンシステム
共同指導診療録

登録医氏名 _____ 登録番号 _____

病棟 _____ 診療科 _____ 院内主治医 _____ I型・II型

患者氏名 _____ 歳 男・女 入院日 平成 年 月 日

傷病名

- 1. _____ 4. _____
- 2. _____ 5. _____
- 3. _____ 6. _____

月	日	診療指導内容、登録医と院内主治医間の連絡事項	登録サイン

(様式 4)

オープンシステム
入院依頼票

_____科御中

登録医名 _____

登録番号 _____

申込日	平成 年 月 日 時	I 型 II 型	
入院希望日	平成 年 月 日	緊急・急・普通	
ふりがな		男・女	年 月 日生
患者氏名			
		電 話	(自宅)

注)緊急外来で直接入院した場合でも、後刻その旨を本用紙に記入してご提出ください。

主病名 :

コメント :

(様式 5)

オープンシステム
入院予約通知票

平成 年 月 日

_____先生

静岡赤十字病院

科 名 : _____ 科

部長名 : _____

(患者名) _____ 様 男・女 歳 月

(患者さんへ)

- ① 入院予約日は、平成 年 月 日 (曜日) です。
- ② 当日は、午前・午後 時 分までに
 - (1) 入院予約通知票
 - (2) 入院申込書 (記載済みのもの)
 - (3) 健康保険証上記の(1),(2),(3)を持って1号館1階入退院受付 (受付窓口6番) までおいで下さい。
- ③ まず、ここで初診手続きを行った後、各診療科で外来診察を受けてから入院となります。
- ④ 入院するお部屋は、1号館・2号館・3号館 階病棟の予定です。
- ⑤ 入院に必要な持ち物は、お渡ししてある「入院案内」に記載してありますので、ご覧ください。
- ⑥ 急な事情で入院できなくなった時、あるいは予定日までに病状の急変が起こった時には、直ちに診てもらっている登録医 (診療所の先生) に相談してください。
- ⑦ 病院へ連絡を取る際は、TEL260-7634 (静岡赤十字病院地域医療連携課)へご連絡ください。
- ⑧ 静岡赤十字病院の診察券をお持ちの方は、当日ご持参ください。

(様式 6)

オープンシステム
入院通知票

平成 年 月 日

先生御机下

静岡赤十字病院

科 名 : _____

部長名 : _____

貴院から入院依頼を受けていた

患者 _____ 様 歳 男・女は、

平成 年 月 日 館 病棟 号室に

確かに入院されました。

主治医は _____ 科 _____ 医師となりました。

オープンシステム
共同指導料会計箋

患者氏名

* 開放型病院共同指導料(I)
1. 1人1日につき(350点)

* 実施日 月 日

院外主治医氏名(必ず自署のこと)

* 保険請求上必要ですのでカルテにも記録をお願いします。

オープンシステム
共同指導料会計箋

患者氏名

* 開放型病院共同指導料(II)
1. 1人1日につき(220点)

* 実施日 月 日

院外主治医氏名(必ず自署のこと)

年 月分 登録医診療報酬計算書

I D _____

患者名 _____

登録医 _____

係	担当

	診療区分		加 算	算定式	支払金額
	手術名	点数			
I 型	手術名	点数	時間内	円	
			時間外		
II 型	検査名	点数	休日	点×10円×30%	円
			深夜		
II 型	手術名	点数	時間内	点×10円×10%	円
			時間外		
			休日		
			深夜		
支払金額合計					円

*翌月 10 日までに地域医療連携課へ提出

科部長	課長	係	担当

主治医制の変更届出書

各患者のオープン入院にあたり、協議のうえ主治医制を変更しましたのでお届けします。

患者氏名		男・女	年 月 日生
入院日	平成 年 月 日		
主治医制	変更前： 型	変更後： 型	
変更理由			
協議書	診療科部長	病院医師	病棟師長

平成 年 月 日

静岡赤十字病院 様

登録番号 _____

登録医名 _____

開放病床の運営に関する覚書

一般社団法人静岡市静岡医師会（以下「甲」という。）と静岡赤十字病院（以下「乙」という。）との間において、「乙」における開放病床の運営について、次のとおり覚書を締結する。

第1条 甲、乙は、地域の皆様に必要な良質かつ適切な医療を提供するため、病院に設置する開放病床を利用し、患者への共同診療・指導を行うことにより、病診連携を推進し開放病床運営システムの充実に努めるものとする。

第2条 甲、乙は、患者に対する治療の一貫性の確保を図るとともに、病院の持つ診療機能の効果的な活用と医療の高度化に対応した医師の生涯教育に努めるものとする。

第3条 甲、乙は、前2項に掲げる事項の円滑な運用を図るとともに、甲が別に定める実施要綱により病院における開放病床運営システムの適正な運営に努めるものとする。

この覚書を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上、各自その1通を所持する。

平成 年 月 日

甲 静岡市葵区東草深町3番27号
社団法人 静岡市静岡医師会
会長

乙 静岡市葵区追手町8番2号
静岡赤十字病院
院長

静岡赤十字病院開放型病床実施要綱

(趣旨)

第1条

この要綱は、医学の進歩に対応し、地域医療の向上に寄与するため、静岡赤十字病院（以下「病院」という。）において実施するオープンシステムについて必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条

この要綱において、「オープンシステム」とは、一般社団法人静岡市静岡医師会（以下これらを「医師会等」という。）の会員が病院の施設、設備等を利用し、病院の医師と協力して、病院の業務として診療業務を行うシステムをいう。

(登録医の登録等)

第3条

オープンシステムを利用しようとする医師会等の会員は、当該所属する会の会長の承認の基、病院に登録するものとする。

- 2 病院は、前項の規定による登録を行った医師会等の会員（以下「登録医」という。）に対し、病院内におけるオープンシステムに基づく診療業務の実施を委託するものとする。
- 3 委嘱期間は、1年とする。ただし双方より委嘱期間の更新について異議のない時は、自動更新するものとする。
- 4 委嘱期間は、更新することを妨げないものとする。
- 5 病院は、登録医に登録医として適当でないと認められる事由が発生した時は、第11条に規定する運営協議会に諮ったうえで、当該登録医の登録を取り消し、解嘱するものとする。

(登録医の責務)

第4条

登録医は、オープンシステムに基づく診療業務に従事するに当たっては、病院に係る規則その他の規定を遵守するとともに、病院の医師と共同して診療上の責務を負うものとする。

- 2 登録医は、病院が主催する診療科カンファレンス、研究会、研修会、講演会等に積極的に参加するよう努めるものとする。

(主治医制)

第5条 登録医は、オープンシステムに基づく診療業務に従事するに当たっては、次の各号に掲げる型のいずれかを選択しなければならない。

- (1) I型 登録医が主治医に、病院の医師が副主治医となる型
- (2) II型 病院の医師が主治医に、登録医が副主治医となる型

(診察)

第6条 オープンシステムに基づく診療に係る各患者との治療方針、入退院の決定等は、主治医、副主治医及び当該診療科の部長の協議によるものとし、協議が整わない時は、当該部長が決するところによるものとする。

- 2 オープンシステムに基づく診療時間及び休診日は、静岡赤十字病院の定めるところによるものとする。
- 3 オープンシステムに基づく診療録、処方箋、医薬品、診療材料等は病院所管のものを使用す

るものとする。

(病床数等)

第7条 オープンシステムに基づく開放型病床数は、6床とし、分散型とする。

- 2 オープンシステムに基づく入院の順序は、病院の一般患者と同様の取扱いとする。ただし、緊急の必要がある場合は、この限りでない。
- 3 登録医は、オープンシステムに基づく入院を指示するに当たっては、当該患者に対し、オープンシステムの内容を十分に説明しておくものとする。

(報酬等)

第8条 登録医に対する報酬の額は、病院と医師会等とが協議して、別に定めるものとする。

- 2 病院は、登録医がオープンシステムに基づく診療業務の従事中において災害を被ったときは、当院非常勤職員の規定に準じて処理いたします。

(医事紛争の処理)

第9条 登録医によるオープンシステムに基づく診療業務の実施中に発生した医事紛争については、病院の職員と当該登録医とが、協力してその処理に当たるものとする。

(運営協議会)

第10条 オープンシステムの円滑な運営と医師会等との連携を図るため、静岡赤十字病院オープンシステム運営協議会（以下「運営協議会」という。）を設置する。

- 2 運営協議会は、病院の職員、登録医及び医師会等の職員をもって組織する。
- 3 運営協議会について必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、オープンシステムの運営に関して必要な事項は、院長が運営協議会の意見を聞いて、別に定める。

附則

この要綱は、平成21年4月16日から施行する。

協議書

一般社団法人静岡市静岡医師会（以下「甲」という。）静岡赤十字病院（以下「乙」という。）とは静岡赤十字病院オープンシステム実施要綱（平成21年4月16日施行。以下「要綱」という。）第9条第1項に基き、当該オープンシステムに係る開放型病院における登録医の報酬の額について、次のとおり協議した。

記

1 登録医の報酬の額

(1) 登録医が要綱第5条第1号に規定するⅠ型を選択して診療業務に従事した場合の報酬の額は、次のア、イに掲げる区分に従い、当該ア、イに定める額とする。

なお、外来診療業務にあってもⅠ型を選択できるものとする。

ア 執刀医となって手術を行った時。健康保険法による保険点数（手技料）の30%に相当する額。

イ 心臓カテーテル法、アンギオ、内視鏡及び膀胱鏡並びに生検法の諸検査を行った時。健康保険法（手技料）の30%に相当する額。

(2) 登録医が要綱第5条第2号に規定するⅡ型を選択して手術に従事した場合の報酬の額は、健康保険法による保険点数（手技料）の10%に相当する額とする。

2 経過措置

この協議は、平成 年 月 日以降新たに入院する患者に対する診療業務に係る登録医の報酬の額から適用し、同日前から引き続き入院中の患者に対する同日以降の登録医の報酬の額は、なお従前の例による。

この協議の成立を証するため、本書2通を作成し、甲、乙2者記名押印のうえ、各自1通を保有する。

平成 年 月 日

甲 静岡市葵区東草深町3番27号
社団法人 静岡市静岡医師会
会長 印

乙 静岡市葵区追手町8番2号
静岡赤十字病院
院長 磯部 潔 印

静岡赤十字病院オープンシステム運営協議会要綱

1 趣旨

この要綱は、静岡赤十字病院開放型病床実施要綱第 10 条の規定に基づき、静岡赤十字病院オープンシステム運営協議会(以下「運営協議会」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

2 協議事項

運営協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) オープンシステムの効率的かつ円滑な推進及び運営に関すること。
- (2) オープンシステムの運営上生じた問題の解決に関すること。
- (3) 登録医の登録の取消しに関すること。
- (4) 静岡赤十字病院オープンシステム実施要綱の改正に関すること。
- (5) その他オープンシステムの運営上必要な事項。

3 構成

運営協議会は、静岡赤十字病院の職員及び登録医若干人を委員として構成する。

4 役員

運営協議会に、委員長及び副委員長 2 人を置き、委員のうちから互選する。

5 会議

運営協議会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理するものとする。

6 会議の開催

運営協議会の会議は、必要の都度会を開催するものとする。

7 会議の成立

運営協議会の会議は、静岡赤十字病院の委員及び登録医の委員のそれぞれ過半数の委員が出席しなければ成立しないものとする。

8 関係者の出席

委員長は、必要があると認めた時は、委員以外の関係者を運営協議会の会議に出席させ、意見を述べさせることができる。

9 報告

運営協議会の協議結果は、速やかに静岡赤十字病院院長及び医師会長に報告する。

10 庶務

運営協議会の庶務は、静岡赤十字病院地域医療連携課において処理する。

11 雑則

この要領に定めるもののほか、運営協議会に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この要領は、平成 年 月 日から施行する。

4 共同利用の実績(別紙3 国様式例第14)

別紙 1

(3)登録医療機関の名簿

	医療機関名	開設者	住所	主たる診療科	地域医療支援 病院開設者との 経営上の関係
1	置塩泌尿器科クリニック	置塩 則彦	葵区呉服町1-1-2 スクエアビル8F	泌尿科	無
2	岡外科胃腸科医院	岡 慎一郎	葵区呉本通西町39	外科・胃腸・整科	無
3	東泉クリニック	東泉 東一	葵区呉服町1丁目20 2F	外科	無
4	官田医院	官田 潤一	駿河区国吉田4-24-17	消化科・神内科	無
5	山中整形外科	山中 芳	駿河区敷地1-28-6	整科	無
6	青山医院	青山 茂夫	葵区北1丁目10-18	内科・小科	無
7	あきやま呼吸器クリニック	秋山 仁一郎	葵区呉服町2-2-30	呼吸科	無
8	浅野医院	浅野 英一	駿河区丸子3-12-64	外科・胃腸	無
9	石井内科医院	石井 一徳	駿河区馬淵2-10-20	内科・循環科	無
10	板井クリニック	板井 茂行	駿河区曲金7-7-19	外科	無
11	伊藤医院	伊藤 靖郎	葵区梅屋町1-7	耳科	無
12	岩はし内科医院	岩橋 宏	駿河区丸子2-2-8-5	内科・呼吸科	無
13	えいもと内科消化器科クリニック	榮本 昭剛	葵区瀬名3-38-9	内科・消化科	無
14	岡本外科クリニック	岡本 恭和	駿河区曲金4-7-3	外科・胃腸	無
15	三枝クリニック・肛門科	三枝 純一	葵区栄町1-1	外科・消化科・肛門	無
16	佐藤外科内科医院	佐藤 泰	葵区北安東3-3-28	内科・外科	無
17	杉浦内科	杉浦 浩策	駿河区みずほ4-10-10	内科	無
18	田野医院	田野 博宣	葵区千代田2-13-35	内科・小科	無
19	ともの整形外科クリニック	伴野 恒雄	葵区上土1-1-71	整科	無
20	水谷痛みのクリニック	水谷 彰仁	葵区鷹匠1-11-15 MIC新静岡2F	麻科	無
21	森本内科循環器科	森本 健一	葵区新通1-11-5	内科・循環科	無
22	レディースクリニック古川	古川 雄一	葵区安東3-10-5	産婦科	無
23	脇 理一郎クリニック	脇 理一郎	葵区緑町5-3	内科・神内科	無
24	わたなベクリニック	渡辺 憲治	駿河区南町6-16 パレルネッサンス104	内科・呼吸科・小科	無
25	ちょう内科医院	ちょう 賛發	駿河区小鹿430-3	内科・消化科	無
26	静岡曲金クリニック	真砂 玲治	駿河区曲金3-5-5	内科・リウマチ科	無
27	イイダ眼科医院	飯田 文人	葵区城北94	眼科	無
28	松木消化器内科クリニック	松木 啓	葵区千代田7-7-12	内科・消化科・胃腸	無
29	松成内科クリニック	松成 信彦	葵区大岩本町7-1	内科・神内科・小科	無
30	かげやま医院	塩 暢夫	葵区相生町9-5	泌尿科・性病	無
31	高野外科胃腸科医院	高野 哲	駿河区中田1-7-11	胃腸・整科	無
32	まつとみクリニック	朝来野 弦	葵区上伝馬23-18	消化科・外科	無
33	トモノ医院	伴野 隆久	葵区東鷹匠町24	内科・外科	無
34	美和クリニック	三神 美和	葵区足久保口組127-7	内科・循環科	無
35	おかもとレディースクリニック	岡本 美枝	駿河区曲金4-7-3	産婦科	無
36	宮下医院	宮下 裕三	葵区羽鳥1-7-13	内科・消化科・循環科	無
37	宮城島内科医院	宮城島 善和	葵区唐瀬1-2-27	内科・循環科	無
38	柴山クリニック	柴山 修介	駿河区登呂5-11-9	内科・循環科	無
39	さそう内科呼吸器科クリニック	佐宗 春美	葵区大鋸町2-5	内科・呼吸科	無
40	コスモス眼科医院	清水 紀恵	葵区昭府2-2-5	眼科	無
41	鈴木内科医院	鈴木 理一郎	葵区安倍口新田526-3	内科・呼吸科・循環科・小科	無
42	長谷通りクリニック	阿美 宗伯	葵区安東1-21-9	内科・神内科・循環科	無
43	ときわ公園クリニック	生野 雅史	葵区川辺町1-1-4 グラトシエル1F	内科・呼吸科	無
44	森田クリニック	森田 清文	葵区上足洗4-1-7	内科・消化科	無
45	袴田外科医院	袴田 光治	葵区籠上13-20	外科・胃腸・肛門・放科	無
46	大石内科循環器科医院	大石 達夫	葵区鷹匠2-6-1	内科・循環科	無
47	こじまクリニック内科・循環器科	小島 春紀	葵区沓谷5-12-7	内科・循環科	無
48	小澤内科胃腸科	小澤 道雄	葵区瀬名川1-29-32	内科・胃腸科	無
49	川崎耳鼻咽喉科クリニック	川崎 康一郎	葵区七間町13-1	耳鼻科	無
50	森園クリニック	森園 徹志	駿河区見瀬216	耳鼻科	無
51	いとう耳鼻咽喉科	伊藤 純一	葵区千代田6丁目30-26	耳鼻科	無
52	大坪耳鼻咽喉科	大坪 俊雄	葵区田町2丁目141-5	耳鼻科	無
53	矢島耳鼻咽喉科気管食道科医院	矢島 洋	駿河区泉町2-3	耳鼻科	無
54	おさだ耳鼻科	白倉 洋子	駿河区丸子新田536	耳鼻科	無
55	長島耳鼻咽喉科医院	長島 泰行	駿河区池田275-1	耳鼻科	無
56	大町耳鼻咽喉科医院	大町 滋	駿河区八幡5丁目7-34	耳鼻科	無
57	渡辺耳鼻咽喉科医院	渡邊 光弘	駿河区寺田12-9	耳鼻科	無
58	野口耳鼻咽喉科医院	野口 健治	駿河区曲金3丁目3-33	耳鼻科	無
59	なかむら耳鼻咽喉科	中村 昇太郎	葵区呉服町1丁目1-14 圭田ビル5階	耳鼻科	無
60	宮城島耳鼻咽喉科医院	宮城島 正和	葵区上足洗2丁目7-8	耳鼻科	無

	医療機関名	開設者	住所	主たる診療科	地域医療支援 病院開設者との 経営上の関係
61	南波耳鼻咽喉科医院	南波 孝守	葵区瀬名中央3丁目28-17	耳鼻科	無
62	あさはた耳鼻科	中村 孝昭	葵区南1541-41	耳鼻科	無
63	清水産婦人科クリニック	清水 篤	葵区北安東5丁目28-1	産婦人科	無
64	内科 杉山医院	杉山 博通	葵区水道町10-5	内科	無
65	司馬医院	司馬 立	葵区栄町2-7	整形外科	無
66	静岡みらいスポーツ・整形外科	石川 徹也	駿河区栗原6-25 1F	整形・リウマチ	無
67	青木内科医院	青木 孝夫	清水区興津清見寺町143-17	内科・循科・小児	無
68	おおいレディースクリニック	大石 晃良	清水区押切2416	産婦人科	無
69	草薙土屋外科医院	土屋 和弘	清水区草薙1丁目25-35	外科	無
70	佐藤医院	佐藤 敬治	清水区大坪2丁目3-12	内科・外科	無
71	杉山医院	杉山 好彦	清水区大手3丁目3-21	内科・外科・整形	無
72	竹内内科	竹内 健	清水区巴町2-5	内科・循科	無
73	土屋医院	土屋 政仁	清水区三保340-10	外科・整形	無
74	中川内科小児科医院	中川 欽也	清水区石川新町8-31	内科・小児	無
75	花みずき通り内科クリニック	寺井 正	清水区西高町4-6	内科・神内	無
76	村上小児科医院	村上 仁	清水区草薙一里山19-7	小児科	無
77	松永医院	松永 元良	清水区高橋南町7-68	内科	無
78	望月クリニック	望月 篤	清水区大沢町2-14	外科・泌尿科	無
79	渡辺外科医院	渡辺 善明	清水区草薙一里山3-33	外科・整形・皮膚	無
80	吉田クリニック	吉田 学	清水区銀座1-23	精神・心内	無
81	片山耳鼻咽喉科医院	片山 洋一	清水区宮加三551-5	耳鼻咽喉科	無
82	古庄さとう泌尿器科クリニック	佐藤 元	葵区古庄3-2-72	泌尿器科	無
83	メディカルスキニング東京脊柱側弯症センター	鈴木 信正	東京都中央区日本橋3-1-17 日本橋ヒロセビル2F	整形外科	無
84	静岡あおい消化器内科クリニック	北村 匡	静岡県静岡市葵区北安東3-3-28	消化器内科	無

登録医療機関数 医科 84医療機関

別紙4 救急医療の提供の実績
(救急医療を提供する能力を有することを証する書類)

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

単位(名)

医師	合計	103			
	常勤	103	専従	7	
				外科専門医	1
				救急科指導医	1
				救急科専門医	4
				内科認定医	1
			非専従	96	
				外科専門医	9
				内科認定医	23
				リウマチ専門医	2
				外科指導医	4
				眼科専門医	1
				形成外科学会専門医	2
				呼吸器指導医	1
				細胞診専門医	1
				産婦人科指導医	2
				産婦人科専門医	2
				耳鼻咽喉科指導医	2
				耳鼻咽喉科専門医	1
				周産期暫定指導医	1
				循環器専門医	1
				小児科専門医	3
				消化器外科学会指導医	1
				心臓血管外科修練指導者	2
				神経内科指導医	4
				整形外科専門医	6
				脊椎脊髄外科指導医	3
				総合内科専門医	13
				糖尿病学会指導医	1
				糖尿病学会専門医	2

看護師				内分泌代謝科指導医	1
				内分泌代謝科専門医	2
				認知症学会指導医	2
				脳神経外科専門医	3
				泌尿器科指導医	2
				母体保護法指定医	2
				麻酔科専門医	3
				脈管専門医	1
	合計	63			
	常勤	58	専従	58	
			救急看護認定看護師	3	
非常勤	5	専従	5		
医療従事者名簿は、別紙4のとおり					

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	24床
専用病床	6床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
救命救急センター外来	342.37㎡	(主な設備) 患者監視装置、除細動器、AED、人工呼吸器、CT CR一般撮影装置	可
救命救急センター病棟	1222.85㎡	(主な設備) 血液ガス分析装置、超音波診断装置、患者監視装置、補助循環装置 (IABP・PCPS) 人工呼吸器	可
手術室	954.3㎡	(主な設備) 患者監視装置連動麻酔自動フローチャート、ビデオモニタリングシステム、血液ガス分析装置、マイクロスコープユニット	可
臨床検査部門	486.5㎡	(主な設備) 生化学自動分析装置、自動グリコヘモグロビン分析計、全自動免疫化学発光測定装置、全自動血液ガス分析装置、自動血球分類装置	可
放射線部門	329.26㎡	(主な設備) CR一般撮影装置、MRI、CT、血管撮影装置	可

4 備考

救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院 救急告示（静岡県告示第460号）

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。
既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記載すること。

5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	6,064人 (2,361人)
上記以外の救急患者の数	7,677人 (1,461人)
合計	13,741人 (3,822人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	2台
---------------	----

8847	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年5カ月				
8848	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年5カ月				
8852	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	オンコール	0年2カ月	内科認定医			
8853	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	オンコール	0年1カ月	内科認定医	循環器専門医		
8494	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	オンコール	1年11カ月	産婦人科専門医	産婦人科指導医	母体保護法認定医	
8502	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8503	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8504	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8505	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8506	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8507	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8508	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8509	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8510	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8511	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8512	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8513	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8514	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	1年11カ月				
8525	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8526	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8827	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8828	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8829	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8830	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8831	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8832	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8833	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8834	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8835	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8836	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8838	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8839	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	日当直・オンコール	0年11カ月				
8846	医師		常勤	非専従	8:30~17:00	オンコール	0年11カ月				

別紙 5 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績
 (地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明)

1 研修の内容

平成30年度	
救命に関する講習会	
開催述べ数	10回
研修参加述べ数	223人
若手医師向けセミナー	
開催述べ数	12回
研修参加述べ数	218人
医療安全に関する講習会	
開催述べ数	26回
研修参加述べ数	2,670人
その他	
開催述べ数	34回
研修参加述べ数	1,014人
総合計	
開催述べ数	82回
研修参加述べ数	4,125人
各研修会の目的、対象者、参加者数の実績等は、別添5のとおり	

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	82回
(2) (1) の合計研修者数	4,125人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- ア 研修プログラムの有無 ・無
 イ 研修委員会設置の有無 ・無
 ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
[Redacted]	医師	内科	副院長	28年	臨床研修管理委員長
	医師	整形外科	副院長	33年	
	医師	救急科	部長	19年	教育責任者
	医師	循環器科	副部長	15年	
	医師	産婦人科	部長	29年	
	医師	内分泌代謝内科	部長	38年	
	医師	放射線科	部長	34年	
	医師	病理部	部長	35年	
	医師	神経内科	部長	33年	
	医師	麻酔科	部長	32年	
	医師	神経内科	部長	31年	
	医師	血液内科	部長	29年	
	医師	内科	部長	17年	
	医師	小児科	部長	28年	
	医師	外科	部長	34年	
	医師	呼吸器科	部長	26年	
医師	耳鼻咽喉科	部長	17年		

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

4 研修実施のための施設及び設備の概要

施 設 名	床 面 積	設 備 概 要
第一会議室	108.32㎡	(主な設備) スクリーン、音響設備一式、プロジェクター、ホワイトボード、演台
第二会議室	61.83㎡	(主な設備) 移動式スクリーン
第三会議室	31.75㎡	(主な設備) 長机6台、椅子18脚
第四会議室	44.60㎡	(主な設備) スクリーン、ホワイトボード
特別会議室	50.87㎡	(主な設備) スクリーン、大机1台、椅子17脚
研修室 1	80.27㎡	(主な設備) 音響設備一式、プロジェクター、ホワイトボード
研修室 2	51.20㎡	(主な設備) スクリーン、パソコン、大型モニター

平成30年度 講演会・研修会開催一覧 参加者

- 1 救命に関する講演会
- 2 若手医師向けのセミナー
- 3 医療安全に関する講習会
- 4 その他

別紙3

開催月日	曜日	区分	名称	講演内容	対象者	参加人数(合計)	参加人数(院外)	医師参加数	うち外部医師数
1 6月9日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	16	0	0	0
2 6月13日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	24	0	0	0
3 7月11日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	21	0	0	0
4 8月8日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	18	0	0	0
5 9月12日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	22	0	0	0
6 10月10日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	20	0	0	0
7 11月14日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	21	0	0	0
8 1月9日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	14	0	0	0
9 2月13日	水	1	BLS・AED講習会(大人)	緊急時の対応について	全て	18	0	0	0
10 8月1日	水	1	静岡県静岡医師会研修センター救命講習会	救急業務で対応される事象の救急処置講習等	全て	49	49	0	0
11 4月16日	月	2	研修医のためのミニレクチャー	鎮痛(実習)	医師	17	0	17	0
12 12月3日	月	2	研修医のためのミニレクチャー	ギブスの講習会	全て	40	0	14	0
13 1月8日	火	2	研修医のためのミニレクチャー	外傷画像診断	医師	16	0	16	0
14 1月22日	火	2	研修医のためのミニレクチャー	急性腰痛-腰痛のみかた	医師	12	0	12	0
15 2月7日	火	2	研修医のためのミニレクチャー	腰痛	医師	16	0	16	0
16 2月19日	火	2	研修医のためのミニレクチャー	呼吸器科領域「呼吸器科」「ホーダー」のレクチャー	医師	13	0	13	0
17 9月26日	水	2	第17回静岡若手医師のための習熟セミナー	輪流大量補液・輸液の臨床演習	全て	35	12	33	10
18 6月30日	土	2	静岡若手医師のための感染症カンファレンス	40歳女性 主訴発熱の症例	医師	17	1	16	1
19 8月18日	土	2	静岡若手医師のための感染症カンファレンス	講師: 静岡県立静岡がんセンター 山本修平	医師	12	2	10	2
20 11月17日	土	2	静岡若手医師のための感染症カンファレンス	72歳男性、発熱	医師	9	1	9	1
21 11月29日	水	2	静岡若手医師のための感染症カンファレンス	近頃炎症アゲアゲ	医師	21	0	21	0
22 3月9日	土	2	静岡若手医師のための感染症カンファレンス	静岡県立静岡がんセンター 伊東直哉	医師	11	1	11	1
23 5月22日	火	3	第1回医療安全セミナー	安全な食事の提供	全て	38	4	0	0
24 6月5日	火	3	第2回医療安全セミナー	術室管理について	全て	45	0	0	0
25 6月19日	火	3	第3回医療安全セミナー	視鏡外科手術の安全管理	全て	62	0	1	0
26 6月25日	月	3	第4回医療安全セミナー	除菌薬における膝蓋の取り扱い	医師	36	0	0	0
27 7月10日	火	3	第5回医療安全セミナー	トランプアターの整備	全て	33	4	0	0
28 7月18日	水	3	第6回医療安全セミナー	身体探検-進出までの医療安全	全て	19	0	0	0
29 7月31日	火	3	第7回医療安全セミナー	ERJについて	全て	39	0	0	0
30 8月7日	火	3	第8回医療安全セミナー	抗生物質について	全て	61	1	0	0
31 8月22日	水	3	第9回医療安全セミナー	災害対策-非常時の説明と訓練会	全て	24	1	0	0
32 9月18日	火	3	第10回医療安全セミナー	院内の副機検出状況について	全て	11	0	0	0
33 10月22日	月	3	第12回医療安全セミナー	抗菌薬適正使用について	全て	77	1	3	1
34 10月31日	水	3	第13回医療安全セミナー	抗がん剤の薬理知識と最近の話題	全て	30	0	0	0
35 11月6日	火	3	第14回医療安全セミナー	菌尿菌尿について	全て	23	2	0	0
36 11月20日	火	3	第15回医療安全セミナー	CT検査について	全て	33	0	0	0
37 11月28日	水	3	第16回医療安全セミナー	腰痛予防について	全て	7	2	0	0
38 12月4日	火	3	第17回医療安全セミナー	侵入デバイスについて	全て	18	0	0	0
39 12月11日	火	3	第18回医療安全セミナー	記録転写を防ぐために	全て	9	0	0	0
40 1月17日	水	3	第19回医療安全セミナー	マスタ人口呼吸器、ハイフローセラピーについて	全て	26	0	0	0
41 1月23日	水	3	第20回医療安全セミナー	高齢者の栄養と食事援助	全て	9	0	0	0
42 2月6日	水	3	第21回医療安全セミナー	ハイリクスタ(カリウム等)について	全て	11	0	0	0
43 7月23日	月	3	第1回医療安全全体研修会	災害時トリアージと広域搬送	全て	349	0	13	0
44 11月30日	金	3	第2回医療安全全体研修会	非常時対応について	全て	374	0	33	0
45 11月6日	月	3	第1回院内感染対策全体研修会	インフルエンザ対策	全て	871	0	61	0
46 1月30日	水	3	第2回院内感染対策全体研修会	英痰、1/30も開腹	全て	412	0	11	0
47 8月29日	金	3	第1回137マネージャー研修	7/14くんの入力方法	全て	49	0	1	0
48 2月27日	水	3	第2回137マネージャー研修	RTIについて	全て	38	0	4	0
49 6月28日	火	4	第148回CPC	74歳、男性 体動困難	全て	37	0	33	0
50 9月26日	火	4	第149回CPC	92歳女性、体動困難	全て	25	0	21	0
51 11月27日	火	4	第150回CPC	79歳、女性 腰痛	医師	24	0	22	0
52 2月26日	火	4	第151回CPC	患者名: 平田 真生子、性別: 男、年齢: 67歳	全て	22	0	17	0
53 3月12日	火	4	第20回内科CPC	発熱者: 太田 万由子、林 秀行	全て	17	0	16	0
54 7月22日	日	4	第1回胎児心エコーセミナー	胎児心エコーについて	全て	6	3	5	2
55 6月20日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	悪病と次世代を継ぐ遺伝性疾患の一例(肥満)	医師	21	1	20	1
56 7月4日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	冠動脈性心臓病の一例、AITLの再発症例	医師	34	1	33	1
57 7月11日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	肥満と次世代を継ぐ遺伝性疾患の一例(肥満)	医師	23	0	23	0
58 7月18日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	16q関連疾患、小神経障害	医師	22	1	21	1
59 9月5日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	肥満と次世代を継ぐ遺伝性疾患の一例(肥満)	医師	16	0	16	0
60 9月12日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	ITP(血小板減少症)をきたす疾患	医師	19	1	17	1
61 9月19日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	慢性関節炎併発症、家族性アミロイドーシス	医師	17	1	17	1
62 10月21日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	急激な腎機能低下をきたした1例、心原性腎臓病に対する治療法を議論した	医師	23	1	23	1
63 10月31日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	心原性腎臓病に対する治療法を議論した	医師	20	1	20	1
64 11月7日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	多発性肥満を伴った感染性髄膜炎の一例	医師	20	0	20	0
65 12月19日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	肥満と次世代を継ぐ遺伝性疾患の一例(肥満)	医師	15	0	15	0
66 1月23日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	発熱者: 太田 万由子、菊池 憲介	医師	24	1	24	1
67 1月30日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	近藤 泰	医師	16	1	16	1
68 2月6日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	発熱者: 高橋 佳也、高橋 巧	医師	21	1	21	1
69 2月13日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	発熱者: 菊池 憲介、中村 匡	医師	23	0	23	0
70 2月20日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	発熱者: 太田 万由子、高橋 佳也	医師	22	1	22	1
71 2月27日	水	4	地域参加型内科合同カンファレンス(水曜会)	発熱者: 近藤 泰、菊池 憲介	医師	19	1	19	1
72 5月14日	月	4	連携施設内科合同カンファレンス 総合プロブレム方式、Dr. 栗本カンファレンス	プロブレムという概念	医師	14	0	14	0
73 6月25日	月	4	連携施設内科合同カンファレンス 総合プロブレム方式、Dr. 栗本カンファレンス	プロブレムの演習	医師	11	0	11	0
74 7月19日	水	4	連携施設内科合同カンファレンス 総合プロブレム方式、Dr. 栗本カンファレンス	63歳男性、主訴: 腰痛	医師	6	1	5	0
75 9月13日	水	4	連携施設内科合同カンファレンス 総合プロブレム方式、Dr. 栗本カンファレンス	診断プロセスについて	医師	5	0	5	0
76 10月29日	月	4	連携施設内科合同カンファレンス 総合プロブレム方式、Dr. 栗本カンファレンス	治療の決定	医師	10	0	10	0
77 12月10日	月	4	連携施設内科合同カンファレンス 総合プロブレム方式、Dr. 栗本カンファレンス	79歳、男性 心臓病	医師	10	0	10	0
78 3月4日	月	4	連携施設内科合同カンファレンス 総合プロブレム方式、Dr. 栗本カンファレンス	症例発表+カンファレンス	医師	11	0	11	0
79 6月23日	水	4	医師研修会 特選症例研修会	深部静脈血栓症・特選症例研修会	全て	65	0	11	0
80 9月31日	水	4	平成30年度医師研修会 改定版「医療安全」の取組	全職種を対象とした職員研修	全て	183	0	8	0
81 10月26日	金	4	研修セミナー 腰痛診療の実際	腰痛による業務遂行能力低下に対する対策	全て	32	2	0	0
82 1月15日	金	4	平成30年度医療マネジメント・RIT発表会	合同発表会	全て	201	1	3	0

別紙6 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者氏名	事務部長 [REDACTED]
管理担当者氏名	医事第2課長 [REDACTED]

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		医事第2課、および院外倉庫 平成18年4月より外来分のみ電子カルテ保管 平成28年1月より入院・外来共に電子カルテ保管	入院・外来共通の1患者1ID方式 但し、電子カルテ導入までの外来診療録は、最終来院年別ID順の管理、入院診療録は患者IDによる一元管理（下2桁別ID順）
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携課	
	救急医療の提供の実績	救急課	
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	企画課	
	閲覧実績	医事第2課	年ごと受け付け順管理
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

別紙7 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧責任者氏名	事務部長 [REDACTED]
閲覧担当者氏名	医事第2課長 [REDACTED]
閲覧の求めに応じる場所	医事第2課
閲覧の手続の概要 閲覧申請書の提出→許可→会議室等にて閲覧	

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	0件

別紙 8 医療法施行規則第9条19の委員会の開催の実績

委員会の開催回数	2 回	
委員会における議論の概要		
<p>平成30年度 第一回静岡赤十字病院地域医療支援病院運営委員会</p> <p>日時 平成30年9月10日（月）18：55～19：55</p> <p>場所 院内2号館4階 特別会議室</p> <p>委員総数 15名</p> <p>出席委員数 13名</p> <p>議題 （配付資料及び議事録 別紙参照）</p> <p>1 実績報告</p> <p>①紹介患者に対する医療提供</p> <p>②共同利用の実績</p> <p>③救急医療の提供</p> <p>④地域の医療従事者に対する研修の実績</p> <p>⑤患者に対する相談体制</p> <p>2 当院の最近の活動報告</p> <p>①病診連携懇親会について</p> <p>②紹介予約業務の取り扱いについて</p> <p>③赤十字の救護活動について</p> <p>3 意見交換</p>		
<p>平成30年度 第二回静岡赤十字病院地域医療支援病院運営委員会</p> <p>日時 平成31年3月12日（火）18：55～19：45</p> <p>場所 院内2号館4階 特別会議室</p> <p>委員総数 15名</p> <p>出席委員数 12名</p> <p>議題 （配付資料及び議事録 別紙参照）</p> <p>1 実績報告</p> <p>①紹介患者に対する医療提供</p> <p>②共同利用の実績</p> <p>③救急医療の提供</p> <p>④地域の医療従事者に対する研修の実績</p> <p>⑤患者に対する相談体制</p> <p>2 当院の最近の活動報告</p> <p>①病診連携懇親会</p> <p>②診療所訪問</p> <p>③訪問看護ステーション設置</p> <p>3 意見交換</p>		

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

静岡赤十字病院 地域医療支援病院運営委員

○ 運営委員(敬称略)

- | | | |
|-------|-------------|------|
| ・ 委員長 | 静岡赤十字病院 | 院長 |
| ・ 委員 | 静岡市静岡医師会 | 会長 |
| ・ // | 静岡市清水医師会 | 会長 |
| ・ // | 静岡市保健所 | 所長 |
| ・ // | 静岡市薬剤師会 | 会長 |
| ・ // | 静岡市消防局 | 救急課長 |
| ・ // | 静岡呉服町名店街 | 副理事長 |
| ・ // | 日本赤十字社静岡県支部 | 事務局長 |

○ 内部委員

- | | | |
|------|---------|-------------------|
| ・ 委員 | 静岡赤十字病院 | 副院長 |
| ・ // | // | 副院長 |
| ・ // | // | 副院長兼看護部長 |
| ・ // | // | 事務部長 |
| ・ // | // | 医療社会事業部
アドバイザー |
| ・ // | (幹事) | 地域医療連携課長 |
| ・ // | (書記) | 地域医療連携課
予約係長 |

別紙 9 患者相談の実績

患者相談を行う場所	ア. 相談室 相談窓口 イ. 総務課 ウ. 医療安全推進室 エ. 医療社会事業部	
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	ア. 相談室：看護師1名 相談窓口 イ. 総務課：事務員2名 ウ. 医療安全推進室：看護師1名、事務員2名 エ. 医療社会事業部：社会福祉士6名	
患者相談件数	25,102件	
患者相談の概要		
①健康相談（一般的な相談）	5,281件	
②医療行為・医療事故・情報公開	82件	
③診療報酬等の費用負担	796件	
④職員の対応・接遇	78件	
⑤病院の設備、人員、運営体制等	60件	
⑥その他	18,805件	その他 内訳
合計	25,102件	家族関係 1,170件 在宅介護 4,615件 療養生活 415件 就労・職場 42件 就学・教育 4件 虐待・暴力 104件 受診・受療 1,296件 転院 6,760件 他施設利用 3,522件 心理的問題 256件 他福祉関係法 540件 紛失物他 81件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の対応や接遇に関する意見に対して、各部署に注意喚起した。 ・ 院内の場所や設備に関する意見については、案内表示を見直し整備した。 		

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

別紙10 その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<p>・評価を行った機関名、評価を受けた時期</p> <p>日本医療機能評価機構</p> <p>平成10年11月16日 一般病棟種別B</p> <p>平成16年 7月26日 一般病院Ver. 4.0</p> <p>平成21年 3月16日 一般病院Ver. 5.0</p> <p>平成30年12月19.20日 一般病院2 3rdG:ver. 2.0 受審</p>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1) 病院HPにて、地域医療連携、地域医療支援病院について情報発信している。適宜</p> <p>2) メールマガジンにて、院外の患者に向けて広報している。月1回 年12回</p> <p>3) 日赤Newsにて、患者に向けて当院の近況等の情報を広報している。3ヶ月に1回 年4回</p>	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	有・無										
<p>・退院調整部門の概要</p> <p>担当課：医療社会事業部（医療社会福祉課、入退院・療養支援課、地域医療連携課）</p> <p>職員数：医療社会福祉課（社会福祉士6名）</p> <p>入退院・療養支援課</p> <p>（課長1名 説明外来係看護師：5名、退院支援係：看護師3名 訪問看護係：5名 がん相談支援センター：がん看護専門看護師1名・看護師1名 看護助手1名 事務1名）</p> <p>地域医療連携課（看護師3名 事務5名）</p> <p>業務内容：</p> <table border="0"> <tr> <td>予定入院患者の入院・手術説明</td> <td>入院前からの問題点抽出と早期解決</td> </tr> <tr> <td>個別入退院調整</td> <td>福祉・サービスに関する個別相談</td> </tr> <tr> <td>個別外来療養支援</td> <td>がん患者の相談、就労支援</td> </tr> <tr> <td>退院前訪問による相談、療養指導</td> <td>がん患者の定例カフェ</td> </tr> <tr> <td>入退院支援を行う病棟看護師への指導、支援</td> <td>入院中の外出・外泊支援 訪問看護</td> </tr> </table>		予定入院患者の入院・手術説明	入院前からの問題点抽出と早期解決	個別入退院調整	福祉・サービスに関する個別相談	個別外来療養支援	がん患者の相談、就労支援	退院前訪問による相談、療養指導	がん患者の定例カフェ	入退院支援を行う病棟看護師への指導、支援	入院中の外出・外泊支援 訪問看護
予定入院患者の入院・手術説明	入院前からの問題点抽出と早期解決										
個別入退院調整	福祉・サービスに関する個別相談										
個別外来療養支援	がん患者の相談、就労支援										
退院前訪問による相談、療養指導	がん患者の定例カフェ										
入退院支援を行う病棟看護師への指導、支援	入院中の外出・外泊支援 訪問看護										

地域医療連携に関する業務

H30年度の退院支援関わる実績

退院調整部門が関わった退院支援患者	3586件	(男性46% 女性54%)
60才代	10.1%	70才代 23.9%
80才代	39.7%	90才代以上 18.2%
入院期間14日以内	27.5%	15～30日 44.9%
		31日以上27.6%
うち退院支援加算数	2429件	
介護連携指導数	917件	
退院時共同指導数	285件	

4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> 策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み 	
1. イーツーネット脳卒中医療連携システム	
1) 内容	
<p>急性期病院・回復期病院・診療所（維持期）の循環型医療連携。</p> <p>連携施設は共通の医療連携パスと所定の診療情報提供書（紹介状）により情報を共有している。</p> <p>対象疾患：脳梗塞、脳出血。</p> <p>診療所で経過観察中の患者には急性期病院の地域医療連携課が診療所宛てに急性期病院の受診案内を送付するなど、再発のリスクを軽減するシステムとなっている。</p>	
2) 実績	
登録患者数 平成30年度 161件 延数 2,254件	
3) 普及させるための取り組み	
<p>名称：イーツーネット脳卒中医療連携総会及び協議会</p> <p>出席：院内 協議会 18名 総会 8名</p> <p> 院外 医師会、急性期 4病院 回復期 5病院</p> <p>回数：協議会 4回 総会 1回</p> <p>院内においては、病院情報システム内の文書管理システムを用いて情報の入力の負担軽減に努めるとともに、各部署間の情報共有がスムーズに行なわれるように配慮している。</p> <p>院外においては総会と協議会で関連施設の情報共有及び問題点の洗い出しと対策について協議している。</p>	
2. 大腿骨頸部骨折医療連携システム	
1) 内容	
<p>急性期病院・回復期病院・診療所（維持期）の循環型医療連携。</p> <p>連携施設は共通の医療連携パス（大腿骨頸部骨折地域連携診療計画書）と所定の診療情報提供書（紹介状）により情報を共有している。</p> <p>対象患者：大腿骨頸部骨折のうち「骨接合術」及び「人工骨頭置換術」を施行した患者。</p> <p>受傷後の出来る限り早い時期に適切に手術、リハビリテーションを行い、受傷前の身体機能を取り戻すことが出来るように効率的かつ効果的に設計されている。</p>	
2) 実績	
登録患者数 平成30年度 216件 延数 1,603件	
3) 普及させるための取り組み	

名称：大腿骨頸部骨折地域連携クリニカルパス合同会議
出席： 院内 9名
 院外 医師会、急性期 5病院 回復期 4病院
回数： 2回
名称：大腿骨頸部骨折地域連携クリニカルパス総会
出席： 院内 6名
 院外 医師会、急性期 5病院 回復期 4病院
回数： 1回

院内の関係者の理解を深めるため、「大腿骨頸部骨折連携パス運用フローチャート」を作成して配布している。また、家族については手術3日前に「大腿骨頸部骨折連携パス」の説明を行い、術日にソーシャルワーカーが家族と面談するなど、早期から家族にリハビリテーション病院への転院についての情報提供を行っている。
院外においては、総会とパス会議で関連施設の情報共有及び問題点の洗い出しと対策について協議している。

3. がん病診連携システム（S-NET）

1) 内容

急性期病院・診療所の2人主治医制の医療連携。

連携施設は共通の医療連携パス（術後地域連携パス）と所定の診療情報提供書（紹介状）により情報を共有している

対象疾患：大腸がん、胃がん、乳がん、肺がん。

診療所と病院でパスに則り定期的に経過観察を行う術後の共有パスシステムとなっている。また地域医療連携課が診療所宛てに急性期病院の受診案内を送付している。

2) 実績

登録患者数	平成30年度	65件	延数	685件
内訳	大腸がん	16件		242件
	胃がん	9件		121件
	乳がん	40件		309件
	肺がん	0件		13件

3) 普及させるための取り組み

名称：S-NET協議会
出席： 院内 4名
 院外 医師会、病院、薬剤師会、ケアマネ協会、訪問看護ステーション連絡会
回数： 1回

院内においては、病院内のイントラネットを用いて、各部署間の情報共有がスムーズに行なわれるように配慮している。

院外においては協議会で関連施設の情報共有及び問題点の洗い出しと対策について協議している。